



作文とは何か？

作文とは、経験や体験に基づいて自分の意見や考えを書いた文章のことと言います。作文は、あなたの意見や考えを他の人に伝えるために書くものです。

以下に、作文とは何かを考えるいくつかのヒントを挙げます。作文がどのようなものなのかがわかれれば、作文をどう書いたら良いのかもわかつてくるはずですから。

作文には感想文と意見文とがあります。

感想文とは、あなたの経験や体験に対するあなたの感想（感じたことや思ったこと）を、他の人たちにもわかりやすいようにまとめて書いた作文のことです。『夏休みのできごと』について書いたり、『日本研修の思い出』について書いたりするのは感想文です。

感想文で大切なことは、あなたの経験や体験に他の人たちが興味・関心を持ち、あなたの感想に納得・共感できるかどうかということです。好きな歌手やアイドルに対する思いなどの個人的な趣味や、彼との痴話げんかなどの個人的すぎる出来事は、感想文のテーマとしてふさわしくありません。

また、あなたの経験や体験に他の人たちが興味・関心を持つためには、あなたの経験や体験がわかりやすく描写・説明されていなければなりません。どんな経験や体験について書いているのかわからなければ、読んだ人があなたの経験や体験に興味や関心を持つことはないでしょうし、あなたの感想に納得・共感することもないでしょう。

意見文とは、あなたの経験・体験をもとにしたあなたの主張や意見を、筋が通るようにまとめて書いた作文のことです。電車の中で見た出来事から高齢化社会に対する考えを書いたり、自分がしてしまった失敗から理想のコミュニケーションについて意見を述べたりするのは意見文です。

意見文で大切なことは、内容に一貫性があり、結論が明確に書かれているということです。結論と言っても、必ずしも文章の最後にまとめを書かなければならないというわけではありません。あなたの意見や主張のポイントがはっきりしていなければならないということです。

また、あなたの意見が事実に基づいたものであることも大切です。自分の意見だけを書いたのでは、意見文とは言えません。事実に基づいて意見を書くためには、まず、事実と意見をはっきり区別して書かなければなりません。何が事実で何があなたの意見なのかわからなければ、あなたの意見が説得力を持つことはないでしょう。

作文はエッセイ（隨筆）ではありません。

作文とは、経験や体験に基づいて自分の意見や考えを書いた文章のことを言います。一方、印象や思いつき、人生観や価値観を自由に書いた文章をエッセイ（隨筆）と言います。ふとあなたが思ったことや考えたこと、あなたの今の気持ちや気分を書いたものはエッセイです。あなたの思いや考えを書いただけでは、作文とは言えないのです。

また、作文は、あなたの意見や考えを他の人に伝えるために書くものです。エッセイは、あなたの個性や主觀を表現するために書くもので、あなたの考えを他の人に伝えるために書くものではないのです。

作文は日記ではありません。

作文とは、経験や体験に基づいて自分の意見や考えを書いた文章のことを言います。一方、ある日の出来事を事実として書いた文章を日記と言います。あなたの経験や体験を書いても、単に事実を並べただけでは日記です。出来事を細かく描写しただけでは、作文とは言えないのです。作文では、事実を細かく描写するよりも、あなたの意見や考えをはっきりと書かなければなりません。

また、日記でも感想や思いを書くことがあります。しかし、日記の目的は事実を記録することにあり、感想や意見は付けたりに過ぎません。一方、作文は、あなたの意見や考えを他の人に伝えるために書くものなのです。

作文はレポート（報告）ではありません。

作文とは、経験や体験に基づいて自分の意見や考えを書いた文章のことを言います。一方、特定の相手に事実を伝えるために書く文章をレポート（報告）と言います。一般的な事柄や考え方、社会的・文化的な常識を書いたものはレポート（報告）です。作文では、事実をまとめて正確に記述するよりも、あなたの意見や考えをはっきりと書かなければなりません。

もちろん、意見文では、一般的な考え方や常識を紹介する必要があることもあるでしょう。しかし、その場合にも、一般的なことだけではなく、あなたの経験や体験という個別的なことが含まれていなければなりません。

作文は詩や小説ではありません。

作文とは、経験や体験に基づいて自分の意見や考えを書いた文章のことを言います。一方、作者の想像力による物語を巧みな文章で書いたものを小説と言います。また、感情や思いを美しい文章で表現したものを詩と言います。小説や詩では、ストーリーや内容だけでなく、巧みな文章や美しい文章である必要があります。しかし、作文に必要な文章は、あなたの考えをはっきりと表す文章です。作文では、巧みな文章や美しい文章を書く必要はありませんし、巧みな文章や美しい文章を書こうとする必要もありません。

作文は二段構成で書くのが基本です。

日本では、作文は『起承転結』の四段構成で書くべきだと言われてきました。しかし、四段構成は、本来文学的な文章に用いられるもので、非常に高度なものであります。そのため、ふつうの作文では、二段構成を基本に考えた方がよいでしょう。例えば、感想文では〈体験→感想〉、意見文では〈具体例→意見〉あるいは〈主張→証拠〉のような構成が二段構成です。なお、原稿用紙2~3枚程度の作文では、形式段落と意味段落が一致しているのが基本です。二段構成なら形式段落も2つ、三段構成なら形式段落も3つということになります。文章の展開（段落の間の論理関係）が理解しづらくなるので、小さな形式段落をたくさん作ってはいけません。

作文では文末形式を統一します。

エッセイや小説などでは、文末形式を混用することがあります。これは、修辞的・美的な観点から行なわれているものです。作文は、巧みな文章や美しい文章を書くものではありませんから、文末形式は統一するのが基本です。文末形式が統一されていない作文では、文章や内容のまとめもないと思われてしまします。常体（だ・である）なら常体、敬体（です・ます）なら敬体に文末を統一しましょう。

作文は書きことばです。

作文の中に話しことばを入れてはいけません。日本語は、話しことばと書きことばに大きな違いがあります。日本語では、書きことばが正式なことばで、話しことばは書きことばよりレベルの低いものです。ですから、書きことばである作文の中に、話しことばを使うことは、作文のレベルを下げてしまうことになります。直接話法の文（カギカッコを使った会話文）以外、作文の中で話しことばを使ってはいけません。

- ×楽しかったなあ。→○楽しかったです。
- ×頑張るぞ！→○頑張ります。／○頑張りたいと思います。
- ×好きじやありません。→○好きではありません。
- ×わからないんですけど、→○わかりませんが、